

コンテナ・ニューエンジンソリューションで 社会インフラの「継続性」を守る!!

ITが社会インフラを支えるようになった今日、ダウンタイム(システムが使用できなくなる時間)をかぎりなくゼロにし、「継続性」の向上をはかることが多くの企業にとって重要な課題となっている。そこで、今号ではグローバルにこの課題の解消に取り組んでいるNeverFail社のブライアン・ヒールホルツァーCEOをゲストに迎え、同社の取り組みや日本でのビジネス展開について聞いてみた。

**継続性に重きを置き
ダウンタイムを
かぎりなくゼロに**

——まずは御社の概要について
お聞かせください。
ブライアン・ヒールホルツァー

I・NeverFail社
CEO 当社は米国のテキサス州オースティンに本社を置き、ビジネスの「継続性」を担保するコンテナ・ニューエンジンソリューションを提供しています。

ニューエンジンソリューションに携わるようになったのですか。ブライアン 私はもともとデータセンターの運用やコンサルティングを手掛けていたのですが、データセンターはダウンタイム(システムが使用できなくなる時間)を回避しなければならぬ施設でありながらも、システムやアプリケーションのメンテナンスや災害、サイバー攻撃などでどうしても一時的に機能を停止せざるを得ないことがあります。結果、ときにはサービスレベルアグリメント(顧客と合意しているサービスレベル)を満たせないことがあり、そのたびに「悔しい思いをしてきました。そうやって「何とかダウンタイムを軽減することができないか」と模索していた折に、イギリスに優れたコンテナ・ニューテクノロジを持つNeverFail社があるこ

と、そして同社がたまたま買収先を探していることを知り、2014年にM&Aを実施することにしました。おかげで、今やこのコンテナ・ニューエンジンソリューション(製品名は「Continuity Engine」)は私たちの事業の柱になっており、すでに60以上の国々で1万社以上の企業・団体がこのソリューションを活用するまでになりました。

——御社のコンテナ・ニューエンジンソリューションの特徴について、もう少し詳しくご紹介ください。
ブライアン 最大の特徴は一般的に用いられるハードウェアの冗長化(スペアを準備しておくこと)に依存せず、ビジネスを継続させながら障害回復を促す点にあります。そのため、このソリューションを導入していれば、ハード障害やアプリケー

ブライアン・ヒールホルツァー
NeverFail社CEO




ソフトウェア企業のNeverfail社を取得する以前はOEMに特化したクラウドコンピューティングプロバイダーを設立し、ミッションクリティカルなアプリケーションの高度な継続稼働をNeverfailのContinuity Engine(CE)で実現するNeverfail Cloudとして発展させた。圧倒的な継続性を強みに、政府の緊急業務、金融取引プラットフォーム、重要な医療業務、世界的に認識されるテーマパークなどを支え、3大陸で7つのデータセンターを展開するまでに成長を遂げ、これらの実績がCEソリューションの有効性を裏付けることにもなった。現在はNeverfail Cloudの運営を終了し、CEを軸とする継続性ソリューションの提供に注力。個人でサイバーレジリエンスとリスクの評価方法論に関する著作も執筆している。

——ハードウェアの冗長化やリカバリーソリューションだけでは補いきれないところが多々あるのですね。
ブライアン 最新のクラウドストレージ技術を用いたとしても、ハードウェアに何らかの障害が生じてしまえば、どうしてもダウンタイムが発生してしまいます。もともと、一般企業であればさほど気にならないレベルのことかもしれませんが、ある種のインフラを担う企業・団体の場合はそういうわけにもいきません。つまり、そういったきわめて高いレベルのニーズに対応できるのが当社の強みなのです。実際、世界各国の交通システムや医療システムに当社のソリューションは採用されており、高い評価を受けています。

——インフラを担う企業・団体に採用されているということは、やはり取引先の多くは大企業に

——インフラを担う企業・団体に採用されているということは、やはり取引先の多くは大企業に

コンティニューエンジンはどう違うか

| | | | |
|---|---|---|-------------|
|  | 可用性※が中心 | 継続的可能性 ユーザーまたはアプリケーションのノーダウンタイム、アプリケーションを識別しない、自動化、ローカル/リモートで利用可能 | 事業継続 |
| アプリケーション識別なし | ベーシックフェイルオーバー クラスタリング、フォールトトレランス、仮想可用性ハイパーコンヴァージド・インフラストラクチャ(HCI) | ハードウェア可用性 | |
| 原始的なビット(0と1)以外は理解しない リカバリーが中心 | データレプリケーション スナップショット、非同期、同期、CDP バックアップとリストア ファイル、ブロック、増分、オンサイト、オフサイト | データ保護 | |

継続性の洗練度の高さ

※ 可用性……システムが継続して稼働できる能力

——もともとはイギリス発の技術ということでしたが、現在の開発拠点はこうなっているの

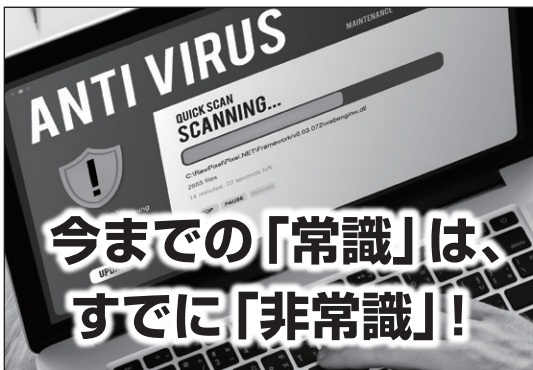
ブロードと提携して 日本市場の開拓を目指す

なるのでしょうか。ブライアン ももちろん、インフラを担う企業は比較的規模が大きい傾向にありますが、ダウンタイムをなくしたいというニーズは規模や業種を問わずあるものです。また、私たちがリーズナブルにソリューションを提供していることもあり、多くの中小企業が導入してくれています。とくに昨今はサイバー攻撃を受けるリスクが日増しに高まっており、あらゆる企業が何かしらの対策を必要としています。たとえば、セキュリティ対策といえ一般的にウイルスやマルウェアからの攻撃を防ぐものというイメージがありますが、この対策には脆弱性の修正プログラムの適用が必要であり、それにはダウンタイムがつきものです。また、サーバーにしばしば影響を与えるランサムウェアなどによる攻撃を受けてもシステムを稼働しつづけなければなりません。そういった観点から、コンティニューエンジンソリューションの重要性が注目されはじめています。

ブライアン 経営上の観点から本社は米国に移しましたが、技術開発の拠点は今も英国、そしてルーマニアなどに置いています。いずれも優れたエンジニアが多いし、ルーマニアに関しては地理的に欧州にもアジアにもアプローチしやすいという利点があります。

——このほど、(株)ブロード(東京都千代田区)を総代理店とする提携をし、日本での販路開拓に乗り出したようですが、日本のマーケットに対してはどのような期待感を持っていますか。ブライアン コロナ禍を機に日本でもクラウド利用が盛んになったと聞いていますし、日本はきわめて高いレベルのITリテラシーを有しており、ダウンタイムの削減にもかなり注意を払っていると思うので、十分に市場性があると考えています。販売戦略やPR戦略に関してはブロードに一任したいと思っていますが、私たちが積極的に後方支援を展開し、日本の皆さんにコンティニューエンジンソリューションの重要性を実感していただきたいと思います。

——日本でも御社の技術が普及し、幅広く活用されていくことを期待したいと思います。



今までの「常識」は、
すでに「非常識」!

もう無駄な時間と費用は「0」にしましょう

 HP Sure Click Enterprise

おかげさまで Bromium は HP Sure Click Enterprise に進化しました

POWERED BY  Bromium

エンドポイントのサイバー対策に関する費用や専門家は、もう必要ありません。
100%* 防御し、レポートします。是非ブロードにお問い合わせください。

※2013年以降、Bromiumは推計20億以上のMicroVMが実行されましたが、侵害報告件数はゼロです。(Bromium社調べ)

詳細は [BROAD Security Square] で … <https://bs-square.jp/columbus>

株式会社ブロード

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスビル永田町7F
TEL: 03-6205-7463 (代表)

